ノスタルジックなホテルへようこそ

シンガポールの歴史は移民の歴史である。中でも人口の7割強を占める中国からの移民はこの国を形作ってきた要の存在。広東、福建、潮州、客家などからそれぞれの風習や食習慣を携えてこの地にやってきた。そんな移民たちの歴史を語る「福德祠（フクタクチー）博物館は、そもそも広東と客家の人々がシンガポール初の中国寺院として1824年に建立したもので、館内には当時の中国移民たちの歴史工芸品などが展示されている。今回ご紹介するホテルは、このミュージアムをエントランスに構える至極ユニークなブティックホテルAmoyである。

ユニークその1。「Telok Ayerストリートのタクシースタンドでおりてください。その向いがホテルです」といわれて行ったもののホテルの看板はどこにも出ていない。その代わり、この博物館の門が見える。近所の人に尋ねると、ホテルはその博物館の中にあるとのこと。前述の元中国寺院だった福德祠という大きな表札を掲げた古い門をくぐり、展示コーナーをぐるりと見回すとその先にホテルのロビー（写真右）が見えた。海外からの客はまずここで驚くに違いない。ホテルの看板もなければエントランスへの車寄せもないので、このホテルでは宿泊料金の中に空港間の送迎が含まれる。そして、このホテルもこの博物館も金融街の裏手にあたるTelok Ayerストリートという中国色の強い地区の中心Far East Squareという複合ビルの一部となっている。

ユニークその2。部屋の総数は37室。ロビーや廊下の壁には中国人の姓（漢字）がデコレートされており、同時にその姓は各部屋の名前にもなっている。それはまるで「黄」さんや、「李」さんの家といったふうで、中国移民たちがこの辺りで暮らしていた当時の様子を想像させる。しかしそのデザインはあくまでモダンでシックだ。

ユニークその3。部屋はコージーシングルとデラックスダブル（写真上）の2カテゴリーのみだが、37室すべて異なるインテリアで客を楽しませる。例えばあるシングルルームのベッドは白い木枠のオピュームベッド、部屋は赤色の格子がついたフランス窓で、洗面台のベイスンは青い模様の中国陶器、どこかノスタルジックな感傷をそそる一方、デスク周りはモダンでNespressoやミニバーがコンパクトに収納されおり、とても15m²とは思えない配置がその狭さを感じさせない。この賢さは多分日本人のデザイナーではないかという予感は的中。ミニマルな美しさを追求させたら世界一だ、と思う。ちなみにミニバーもwifi接続もすべて宿泊料金に含まれる。

昨年12月にオープンしたばかりのAmoyは、宿泊するだけでなくこのユニークさやシンガポールの歴史を是非体験してほしいと思っているという。博物館が入り口で看板のないホテル、今オープニングプロモーション中でシングルルームはSG$218++。ノスタルジックでモダンな部屋はきっと旅の疲れを癒してくれる。

AMOY
76 Telok Ayer Street
Singapore
Tel: 65 6580 2888
stayfareast.com